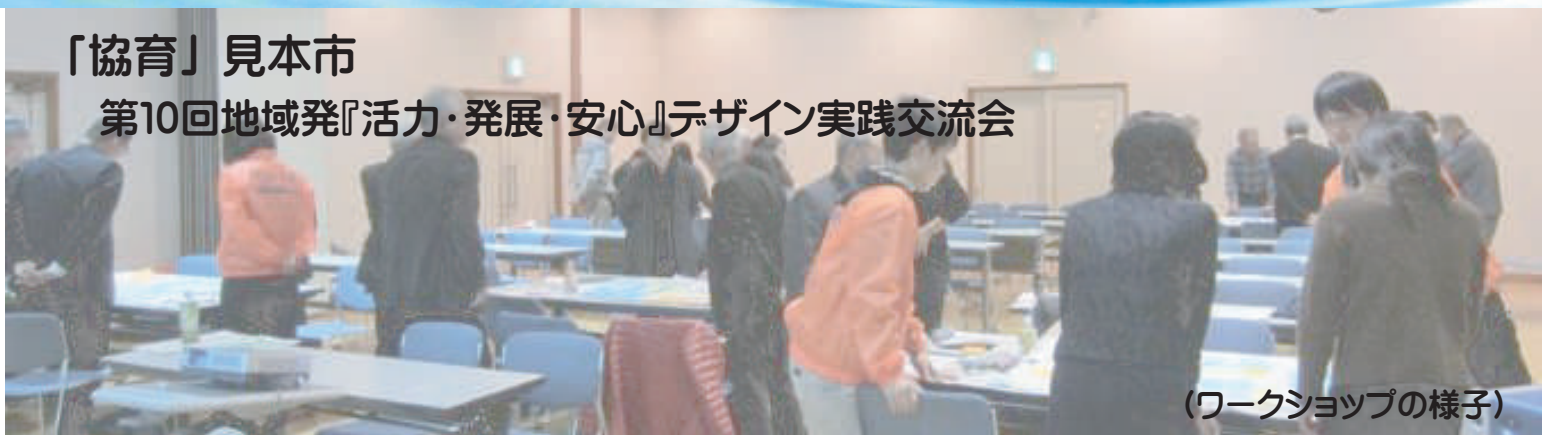


### 「協育」見本市

### 第10回地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会



(ワークショップの様子)

### 地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会 10年の歩みとこれから

運営委員長(東国東地域デザイン会議会長) 林 浩昭

大分県国東市安岐町「梅園の里」で2008年に開始された「地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会」は、今年(2017年)第10回目を重ねた。本交流会の目的は、「民」という立場でアイデアを發揮し、ネットワークを築き、素晴らしい「デザイン」を描きながら取り組んでいる県内の個人・団体・グループの活動情報を共有し、新たに「我がまちづくり」に生かしていくエネルギーを高めていく」ことである。

東国東地域デザイン会議と大分大学高等教育開発センターが、大分県生涯教育学会 NPO法人幼老共生まちづくり支援協会、NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット、大分県「協育」ネットワーク協議会など、そして大分大学学生や開催地ボランティアの協力を得て運営してきた。第1～5回の開催状況は、[https://kyouikunet.sakura.ne.jp/siryu/2011-jirei/06-2011\\_3-2.pdf](https://kyouikunet.sakura.ne.jp/siryu/2011-jirei/06-2011_3-2.pdf) に報告されている。

第6～8回は、「大いに語ろう～今、大人がする子ども育て、そして子どもが活躍するまちづくり～」、第10回は、「地域創生のための取組とその仕組みを語ろう～子どもから大人まで、教育から福祉まで～」をテーマに、そして、第9回は、平成27年度「学びによる地域力活性化プログラム普及・啓発事業」(文部科学省委託事業)の最終発表会と重ねて、県内はもとより九州や中国地方からの参加者も得て開催することができた。地元運営委員会は、富永六男事務局長(現国東市副市長)が多くのボランティア参加の仕組みを作り上げたことで大いに盛り上がった。また、発表や講演は年々洗練され多くの情報を参加者にもたらすことに成功してきたが、それと並行して行われた意見交換会での地元産品の競り市を盛り上げた地元ボランティアや大分大学学生の活躍にも励まされた。2013年には、地元が世界農業遺産に認定されたこともあり、関連した地域づくりの最前線を実際に見学してきたことも参加者の刺激になったと考えている。

今後の交流会の方向性も模索しながらの第11回目開催を予定したところであるが、少子高齢化の最前線で生きる我々の生きざまを発露し拡散していく場としての重要性をさらに追求していきたいと考えている。



回は、「地域創生のための取組とその仕組みを語ろう～子どもから大人まで、教育から福祉まで～」をテーマに、そして、第9回は、平成27年度「学びによる地域力活性化プログラム普及・啓発事業」(文部科学省委託事業)の最終発表会と重ねて、県内はもとより九州や中国地方からの参加者も得て開催することができた。地元運営委員会は、富永六男事務局長(現国東市副市長)が多くのボランティア参加の仕組みを作り上げたことで大いに盛り上がった。また、発表や講演は年々洗練され多くの情報を参加者にもたらすことに成功してきたが、それと並行して行われた意見交換会での地元産品の競り市を盛り上げた地元ボランティアや大分大学学生の活躍にも励まされた。2013年には、地元が世界農業遺産に認定されたこともあり、関連した地域づくりの最前線を実際に見学してきたことも参加者の刺激になったと考えている。今後の交流会の方向性も模索しながらの第11回目開催を予定したところであるが、少子高齢化の最前線で生きる我々の生きざまを発露し拡散していく場としての重要性をさらに追求していきたいと考えている。



(たくさんの参加者)



(秀溪園 古城美美枝さん)



(協育ネット 安達美和子さん)



(ワークショップ)



(たくさんの意見が～)



(交流会の様子)

### 大会をお手伝いしてくれました大分大学の学生さんからも感想が届きました～

#### 大分大学 工学部 4年 学生読み聞かせボランティア「ゆい(結い)」 高木 日向子

「地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会」でのグループワークでファシリテーターとして参加をさせていただきました。テーマは「地域活動を進めるための仕組みづくり演習」。組織運営には仕組みが大切であるという考えのもと、様々な地域の活動家の方たちと話し合いを行いました。班のメンバーは、大学で教授をされている先生をはじめ、障がいを持つ方の作業・生活支援をされている方、地元国東の活性化のため活動されている方など活動分野は様々でしたが、「組織」という視点で話をすると良好な仲間や情報収集能力、金銭的支援の必要性が議論され、共感できる部分が多くあったようでした。学生として学生コミュニティの中で生活していると、地域社会のための組織に参加する機会が滅多にありません。この会への参加し実際に活動されている方たちと関わったことは、大学という組織に属する学生として地域に何ができるのかを考える良いきっかけとなりました。



#### 大分大学 教育福祉科学部 4年 学習ボランティア コネクト 安部 ひみこ

私のグループでは取り組みを支える仕組み作りの成果や成功事例、上手くいくためのコツには、相談しやすい環境・人間関係がよい等が挙げられ、仕組み作りの課題には、お金がない・若い人が少ない(人手が足りない)等が挙げられていました。挙げたメモをグループに分け、仕組みづくりの成功と課題のグループを対になるようにそれぞれ結びつけていきました。そこで、挙げられた課題を線で結んだ成功事例に導くためには何をしたら良いかということを考え、発展・高度化する上で必要な取り組みを挙げていきました。



# 会員さんの活動紹介

谷川 真奈美 (3期生)

特定非営利活動法人 地域ひとネット 代表理事

今回は3期生の谷川真奈美さん取材してきました。谷川さんはNPO法人地域ひとネットの代表理事として女性起業家としても多岐にわたって活動しています。会員の皆さんと協働の機会もあるのではと取材するのを楽しみにしていました。



## 【目的や思い】

～誰ひとり排除しないコミュニケーション・プログラム～  
多くの人が「生きにくさ」を感じる現代社会  
みな「ありのままの自分として生きる」ことを求めている  
そして、「この世に生まれて良かった」と思える人生にしたい  
そんな願いをかなえるための確かな手段を提案します。  
ふれあい囲碁を始めると実践者も 参加者も  
身体中に「気力」が湧いてきます

## 【ふれあい囲碁】

一般にゲームというと、レクリエーションが浮かびます。ふれあい囲碁は、石取りゲームを使いますが、あくまで“共通言語”として活用します。つまり、ゲームを楽しむことが目的ではありません。ふれあい囲碁の目的は、参加者の不安や緊張感を解きほぐし、眠っている力を引き出すことです。とくに、いじめや虐待、あるいは差別など、人間関係のトラブルが原因で心や体が弱っている人には、少しでも早く元気を取り戻してもらい、充実した日常生活を送ってもらうことを目指しています。



## 【ふれあい囲碁を活用した人間関係づくり……効果】

現代社会で、なぜか楽しそうに生きている人がいます。よく観察すると、その人たちには利害や立場、しがらみを超えて“本音で話せる人間関係”があることに気づきます。“本音で話せる人間関係”の存在が、驚くほど人を元気にしていくのです。人とつながる力、仲間をつくる力、それはコミュニケーション能力です。現代人は「コミュニケーションとは何か」ということを、ふだん意識せずに生活していて、本来持っているはずの能力は眠ってしまっています。そして、立場やしがらみだけの人間関係の中で疲れ果て、孤独感に蝕まれていながら日々を過ごしています。特に障害を持った方々にとっては、核家族や一人住まいの生活が広がっている社会の中では生きにくい時代です。家族、国や行政、民間の福祉支援団体など、支援の手を差し伸べ多岐にわたる福祉サービスや援助を行っており、これは一見、充足された福祉社会に見えます。しかし、その環境の中で生きている当事者をはじめご家族、行政の担当職員、医療の関係者、民間の福祉団体職員などは、自身の生活や、支援・援助に追われながら、少しずつ心に負担を感じてしまいます。そこで、単なる物的・金銭的な福祉サービスだけでなく、障害者と支援者双方の、心の健康・保持、増進、予防の考え方が大切になるのです。支援を受けている当事者は体調の心配とは別に、親亡きあとの心配、歳を重ねていくことで生じる老後への心配、無意識の中での疾病利得の葛藤、など日々の生活の中で見捨てられてしまうかもしれない不安と孤独を感じています。また支援する側は、いつの間にかしてあげる支援があたりまえになり、当事者が自分の思う通りにならないことに苦悩し、疲弊しています。それらは「支援する側、される側」という垣根が日常的に存在するからです。人間は、自分の思い通りにならないことに耐えるのは、苦手です。これは、障害者も、家族・支援者すべてに言えることです。これを解決するには、親と子・家族、病院関係者と患者、行政職員と当事者、福祉施設職員と利用者などの垣根を取り除いて、上下関係のない、「誰一人排除しない」平等なコミュニケーションをすることができ「人と人、心と心をつなぐ」環境作りが重要なのです。

## 【活動内容】

- ①ふれあい囲碁等を活用したコミュニケーション能力の醸成事業 ②ふれあい囲碁等を活用した地域リーダー育成事業 ③地域づくりづくり推進事業 ④市民活動団体のネットワークづくりや活動に対する支援事業(中間支援事業)

## 【今後取り組みたいこと】

- ・次世代育成 学校での子どものコミュニケーション・プログラムを提供「人間力ある人づくり」事業
- ・高齢者の生きがいと子どもの育成をマッチング

## 【地域ひとネットの今後の情報はこちらから】

- 地域ひとネットHP  
<http://chiikihito-net.com/>
- 地域ひとネットFB  
<https://www.facebook.com/chiikihito/>



取材の最後に協育ネット会員の皆さんに支援して欲しいことを聞いてみました。「学校の教育プログラムに活用したいが、どの様なアプローチ方法、どの機関への広報が必要か?」、参加団体の交流会があると、団体の様子や繋がりが見え活動の充実が図れて嬉しいです。など前向きなご意見を頂きました。こちらは早急に理事会に提案して会員の皆さんが気軽に参加交流が図れる時間を作りたいと思います

## 事務局よりお知らせ

2017年度総会のご案内

日時：平成29年6月10日(土) 開始14時～16時

場所：別府市公会堂(別府市上田の湯町6-37)2階会議室

### ◎総会議題

- (1)2016年度事業報告について (2)2016年度決算報告について  
(3)2016年度監査報告について (4)2017年度事業計画(案)について  
(5)2017年度予算(案)について

※恐れ入りますが、出欠のご連絡を6月5日までにお知らせください。  
また、会費の納入にご協力願います。(問合せ:090-8400-7645 安達まで)

## 広報部よりお知らせ



5月20.21日に中国・四国・九州地区第36回生涯教育実践研究交流会に取材も兼ねて参加してきました。36年の歩みをひしひと感じた各分科会の発表でした。

次回の広報誌で詳しく会員の皆さんにご報告したいと思います。



(広報部 上原)